



今日からあなたも、投稿者。




投稿希望者はこちら!

可児市ふるさと広報大使 塚本明里さん

全国初、市民行政一体型フェイスブック「かにすぎ」では、市民と市職員が投稿者となって市の魅力を発信しています。可児を愛するあなた。投稿者としてイベントや子育て、おすすめスポットなど、可児の情報をみんなに発信しませんか。

かにすぎ かにすぎ 可児 検索

図書館だより

図書館本館 (広見) ☎5120
 帷子分館 ☎8530
 桜ヶ丘分館 ☎3473

開館時間 本館 火～金 午前10時～午後7時
 土日祝 午前10時～午後5時
 帷子・桜ヶ丘分館 午前9時～午後5時

休館日 本館・分館共通
 毎週月曜日、29日(祝)

展示のご案内 (本館)

読みくらべ絵本「三びきのこぶた」展
 期間 4月28日(木)まで
 三びきのこぶたといえば、レンガの家を建てる子ブタが主人公の昔話ですが、本によってさまざまな描かれ方をしています。県図書館の児童図書研究室からお借りして展示します。

読み聞かせ 子どもの読書週間スペシャル

4月23日(土)は「子ども読書の日」です。図書館では、いつもと少し違う読み聞かせを行います。
 ○かにっこタイム
 日時 4月23日(土) 午後2時
 場所 図書館本館
 ○ちびっこかにっこタイム

日時 4月28日(木) 午前11時
 場所 図書館本館

かにっこタイム ストーリーテリング

ストーリーテリングは、本を使わない語り聞かせです。自由に想像して楽しむことができます。

日時 4月30日(土) 午後2時
 場所 図書館本館
 語り手 おはなしの泉

新しくいった本

- 「やがて海へと届く」 綾瀬まる / 著 (講談社)
 「他人のふたご」 アナイス・ホルディエ / 著 サマンサ・ファターマン / 著 羽田詩津子 / 訳 (太田出版)
 「ハンセン病 日本と世界」 ハンセン病フォーラム / 編 (工作舎)
 「古田織部の陶工たち」 古田織部美術館 / 編 (古田織部美術館)
- 【一般書】
 「伊能忠敬 歩いてつくった日本地図」 国松俊英 / 著 (岩崎書店)
 「墓守りのレオ」 石川宏千花 / 著 (小学館)
 「きょうりゅうがすわっていた」 市川宣子 / 作 矢吹彦彦 / 絵 (福音館書店)
- 【児童書】

広報番組のお知らせ

ケーブルテレビ可児で

いきいきマイタウン

- 4/2(土)～8(金) ようこそ!市長室へ
 - 4/9(土)～15(金) うるおいライブ
 - 4/16(土)～22(金) 好きなのはカニダー
 - 4/23(土)～29(祝) 笑顔の学校
 - 4/30(土)～5/6(金) 簡単!山ごはんレシピ Kルートで行こう!
- 放送時刻が変わりました。

放送時刻 月～金曜日 7:00・17:00・19:00・21:00
 土・日曜日 12:00・19:00・21:00

FMららで

可児市役所からこんにちは

- 4/7(木) 11:20～ ようこそ!市長室へ
- 4/14(木) 11:20～ 可児市ふるさと広報大使塚本明里の「あかりい話」
- 4/21(木) 11:20～ かにっこ海外交流訪問団
- 4/28(木) 11:20～ 可児市ふるさと広報大使塚本明里の「あかりい話」

おはよう可児市役所 月～金曜日 8:00～
 発見!可児の魅力 毎週土曜日 10:00～

もう一度確認を! 災害時の情報収集

すぐメールかに

あらかじめ登録した携帯電話などのメールアドレスに、災害や気象に関する情報を配信します。そのほか、暮らしに役立つ市政情報も配信しています。



「防災無線」電話で確認サービス

専用電話番号 ☎0574 (62) 1548
 防災無線で放送された内容を放送後に電話で確認することができます。
 ※通話料金が必要です。
 ※防災無線放送後、24時間経過すると消去されます。

オーストラリアで驚きの体験を!



ようこそ! 市長室へ



子どもの「成長」にとって大切なのは、経験を積み、視野を広げて、自分の垣根を取り払っていくことだと思います。特に、自分の周囲とは異なる考え、価値観、文化に触れて、違いを許容し、共感できる心を育てることは、自分の器の大きな成長につながります。可児の子どもたちが、大きく成長していつてくれることを願い、オーストラリアとの交流を4年前に始めました。今まで、スカイプ(テレビ電話)による交流や、訪問団の受け入れなどの実績を重ねてきました。そして、昨年11月に、レッドランド市と、教育や文化を中心とする相互協力協定を締結しました。



レッドランド市長と協定書を交わしました

この協定に基づき、今年の8月に、可児の子どもたちをオーストラリアへ派遣する事業を計画しました。現在、両市連携の橋渡しをしてくださっている、オーストラリア日本野生動物保護教育財団理事長の水野哲男さんが中心となっており、可児の子どもたちだけが体験できる特別なプログラムを考えてくれています。昨年訪問した際、私も、体験予定先を訪問しましたが、一般では体験できない、子どもたちにとってかけがえのない体験となると思いました。コアラやカモノハシ、ジュゴンやクジラ、ワライカワセミや鮮やかなインコなど興味深い野生動物。美しい砂浜が続き、すてきなお店が立ち並ぶゴールドコースト。そして、かつての高度経済成長期の日本のような、急速に発展しつつある街の勢い。日本とは大きく異なる景色は、子どもたちにも大きな驚きでしょう。また、日本に親近感を抱いて日本語を学んでいる、オーストラリアの子どものたちとの交流や、ホームステイ体験は、子どもたちの成長にとって、またとない経験になると思います。何より、日本とは7000km離れ、歴史も文化も自然も全く異なる国の子どもたちとであつても、心は隣人同士のようなお付き合いができることを、実感して欲しいと願っています。そ

可児市長 水野成伸

対象となる中高生の皆さんのご応募を待っています。できれば、私も一緒にしたいのですが...? の経験から学んだことを、お友達に伝えていってください。残念ながら、可児の全ての子どもたちに体験してもらうことはできませんが、このような経験が広がっていくことで、多くの子どもたちの成長にとつても、素晴らしい刺激になると期待しています。



日本語を学ぶ子どもたち